

スクールホムライオン

地域の方々に感謝を込めて from 豊山中学校

日頃より、豊山町の方々には、本校の生徒たちがとてもお世話になっております。生徒たちが明るく、前向きに生活することができているのは、地域の方々のご支援のおかげです。ここでは、地域の方々にお世話になった二期の主な行事を紹介いたします。

『吹奏楽部定期演奏会』

十月三十日、本校の吹奏楽部が定期演奏会を行いました。今年度は体育館が工事中で使用できないため、豊山町社会教育センターを会場として使わせていただきました。三年生にとっては、この演奏会が豊山中学校吹奏楽部の部員として最後の演奏会です。そのため、部員一人一人が格別な思いで演奏しました。当日は、多数の方に応援していただき、見事な演奏をすることができました。演奏会前にも、町内各施設や事業所に、PRポスターを貼らせていただくなど、応援していただきました。



『職場体験学習』

今年度も本校二年生が、地域の事業所から多大なるご協力を得て、十一月

十五日から十七日にかけて職場体験学習を行いました。二年生にとっては、初めての体験です。この体験を通して、働くことの大変さ・面白さ・意義などを学ぶことができました。どの生徒も満足した。どの生徒も満足した。そのな表情で学校へ帰ってきて、充実した三日間であったことが伺えました。事業所の皆様、ありがとうございました。



『地域ボランティア』

毎年、日頃お世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを込めて、生徒会が中心となってボランティア活動を行っています。今年度は、十二月二十六日に、町内の三小学校で、清掃活動を行いました。この季節、校内には落ち葉がたくさん落ちています。小学生が喜ぶ姿を思い浮かべながら、生徒たちは一生懸命掃除に取り組みました。「ありがとう。とてもきれいになったね」という声をかけていただき、どの生徒もとても満足げな表情を浮かべていました。

豊山中学校では、これからも地域の方々のご協力に感謝をしながら、生徒たちが充実した学校生活を送れるように努めて参ります。



史料から 豊山 ひもとく 第10回

今回は、お正月にちなんで餅つきに関する民具を紹介します。

▽餅つき用具

お正月といえば「お餅」。今では市販品を購入したり、家庭用餅つき機で製餅したりする家庭が多いことでしょう。



しかし、昭和四十年代前半までは、特に農家では、各家庭で餅つきをするのが普通でした。しかも、親戚の分なども含めて十臼、二十臼とつかれる家庭もありました。その時活躍したのが臼と杵です。

臼は材質で区分すると木臼と石臼に用途では搗臼と挽臼とに分けられます。

この地域によく普及している石臼は重いのが欠点ですが、割れたり虫が入ったりせず、手入れが簡単なので、木臼の後世代として普及していました。



杵にも横杵と堅杵の二種類があります。歴史的には堅杵の方が古く、弥生時代から使われていたそうです。近世考案された横杵は作業能率が良いかわりに体力を必要とし、男性に重宝されています。

餅つきには他にも多くの道具が必要です。まず、ついた餅を平らに伸ばすのに使う伸板と伸棒。洗った餅米を入れて水を切るざる（この辺りでは「いかき」と呼びかつては竹製であった）、餅米を蒸す蒸籠、さらには餅とり粉を薄く広げるための荒神箒（農業神・荒神様が上に宿るかまど周辺を清めるために使われた全長二十センチ位の手箒）などが必要です。

〔参考〕 『絵引民具の事典』 書窓 平成二十四年一月号より